

わくわく!ふくいっ子NEXT

R8.6.15 文責 福井小学校長 鶴本正道



一隅を照らす「気づき」の力

日増しに夏の訪れを感じる季節となりました。保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動への温かいご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、今日の全校朝会では、子供たちに気がつくことの大切さについて話をしました。学校という集団生活の場は、単に知識を習得するだけの場ではありません。自分以外の誰かを思いやり、より良い環境を共に創り出す「気づき」の感性を磨く場でもあります。子供たちに伝えた具体的なエピソードをいくつかご紹介します。

○想像力から生まれる「気づき」

例えば、雨上がりのグラウンド。まだ少しぬかるんでいる場所をあえて避けて歩く子がいます。なぜか。それは、濡れた土に残った深い足跡が乾いて固まると、次に走る子が足首をひねったり転んだりして危ないからです。

また、栽培美化委員会の子供たちは、水やりを終えた後、蛇口を閉めるだけでなく、ホースの中に残った水を抜く作業を欠かしません。それは、水圧でホースが傷んだり破裂したりするのを防ぐためです。道具を大切に使い、次につなげるという立派な「気づき」です。

○社会に貢献できる大人への第一歩

こうした日常の小さな気づきは、一見、些細なことのように思えるかもしれませんが、しかし、これこそが、子供たちが将来大人になったとき、必ず社会の役に立つ人間へと成長するための根っことなる力です。

社会に出れば、正解のない問いや、誰に指示されたわけではない課題に直面する場面が多々あります。その際、周囲の状況を敏感に察知し、今、自分に何ができるかを自ら考えて動ける力は、どのような職種や立場であっても不可欠な能力です。

次に使う人のためにスリッパを整える。こうした誰かのために一歩踏み出す「気づき」の積み重ねが、将来、周囲から信頼され、組織や地域社会を支える不可欠な人材へと繋がっていくのだと確信しています。

○ご家庭と共に育む「気づき」の目

気がつくということは、周囲に関心を持ち、観察し、考えることの積み重ねです。学校では、こうした子供たちの小さな気づきや、それに基づく行動をしっかりと見つけ、褒め、価値づけていきたいと考えております。

ご家庭におかれましても、「靴を揃えるとお互い気持ちいいね」「お手伝いのおかげで助かったよ」といった何気ない会話を通して、お子様の「気づき」の芽を共に育ていただければ幸いです。

一人ひとりの小さな気づきが重なり合い、本校がより温かく、居心地の良い場所となるよう、教職員一同、一丸となって取り組んでまいります。



このイラストはAIで作成しました。